

スポーツ人文・応用社会科学系

氏名 なか むら 中 村 いさむ 勇 講師



主な研究テーマ

□武道の国際普及に関する研究、武道礼法の意味に関する研究、柔道の競技傾向に関する研究

平成24年度の研究内容とその成果

H24年度は2つの異なった状況下の国際柔道の動向に触れる機会がありました。ひとつはアフリカ南部国のモザンビークとボツワナにおける指導で、もうひとつがヨーロッパの指導者資格講習会です。前者は柔道普及の途上にある地域での交流と後者は世界トップレベルの指導者達との交流を経験することができました。

まずアフリカ南部国の訪問ですが、これは国際交流基金のプログラムとして柔道使節団4名の一員として参加しました。両国にそれぞれ1週間ずつ滞在し、首都の柔道クラブや学校などで指導したり、デモンストレーションを行い、柔道普及や紹介に貢献しようとする活動です。それぞれの国で1日1～3カ所訪問するハードスケジュールでした。

私はこれまで国際柔道界における礼法をはじめとする武道としての特性がどのように伝えられ、受け入れられてきたかについて研究してきました。武道の特性は昔から伝わってきた日本固有の伝統文化と言えるもので、その中には礼法や進退動作などの

立居振舞、「一本」に代表される技術の完成への追求、寒稽古や暑中稽古など心身を一体的に鍛錬する修行法などが含まれます。これらは武道を他スポーツから差別化する重要な要素となるわけですが、日本固有ということは言い替えると海外ではなじみがない習慣や思想ということでもあります。つまり海外で武道を普及させるということはこの日本固有の習慣や思想をも伝達していく必要があるわけで、単なるスポーツ交流だけに留まりません。

今回は一方的な指導だけでなく、こうした柔道の武道面について現地での理解や指導法について視察するいい機会でした。例えば礼法についてですが、両国ともに練習セッション前後での礼法は「正坐!」「黙想!」「先生に礼!」と日本語の号令を掛けながら、かなりきちんと行っていました。また指導者の許可がなければ勝手に畳(マット)上に上がれない決まりを徹底するなど、礼儀正しさや規律を重要視していました。

アフリカのような発展途上地域では競技力向上よりもまず礼儀作法を重要視していま

す。これは我々のような日本からの指導者ばかりじゃなく、現地リーダー達がそれを求めているのです。彼らは柔道を小学校で採用してもらおうと努力しているので、そのために柔道の教育的価値を前面に打ち出す必要があるわけです。モザンビークでは30校くらいの小学校で授業の一環として行われていましたし、ボツワナでは「Judo for School」というプロジェクトがあって課外活動として柔道が取り入れられていました。

ただ、このような小学校現場では礼法指導は表面をなぞる程度しか行えていません。そのため指導者も生徒達も一様に「礼法は重要だ」と言うもののその本来の精神を理解できている者はほとんどいません。練習開始と終了時の一斉礼は意識的に行われているものの、それ以外の礼法（練習中の節目や公式試合時に行う礼法）はまだまだ不十分なレベルでした。試合の際の礼法があまりにひどいため、試合を中断して選手達を集めて礼法指導を行ったこともあったくらいでした。

もう一つの経験、ヨーロッパのトップ指導者達との交流でも同じような印象を受けました。これはイギリスで開催された指導者講習会に集まった十数カ国の指導者達と礼法について議論した時のことです。彼らも口々に礼法が重要だと言い、また正確な坐礼や立礼の動作も熟知しているのですが、彼らの習慣である握手やハグとの違いを明確に説明できないのです。またガッツポーズの是非について聞いたところ、積極

的に肯定する者はほとんどいなかったのですが、なぜだめなのかを誰も礼法精神から説明できませんでした。

途上国と先進国の両方ともに柔道における礼法の重要性は認識しているものの、その奥深い精神を理解するには至っていないと感じました。あくまで礼法は握手やハグのJapanese versionとしての認識でしかなく、武道礼法のもつ「けじめ」や「自己抑制」の意味が共有されていないことに気づきました。調べてみたところ礼法指導のために最適な英語教材はまだないようです。柔道が急速な国際展開をする中で礼法などの武道面は表面的な理解のまま、現在に至っている状況を体験することができました。そして我々が今後具体的に取るべき策が見えてきました。

これからの研究の展望

昨年の経験から柔道の礼法指導に特化した教材不足を強く感じました。これから様々な資料を集め、柔道礼法の体系的な指導法を作成し、海外向けに英語で指導書を作ろうと考えています。今後、このような取り組みを重ねていくことで鹿屋体大が柔道など武道における国際的な拠点となるように目指しています。